

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 8 月 4 日現在

機関番号：52301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350353

研究課題名(和文) 相互学習に基づいたSNSに展開する英語のコミュニティの構築と参加する学習者の評価

研究課題名(英文) Construction of of an Internet English Learning Community Based on Mutual Learning by Using SNS and Evaluation of Participants' Online Output

研究代表者

飯野 一彦 (Iino, Kazuhiko)

群馬工業高等専門学校・一般教科(人文科学)・教授

研究者番号：80159574

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インターネット上に、若者のコミュニケーションの重要な手段の一つとなっているSNSを利用した、学習者が互いに学び合う「英語のコミュニティ」を構築し、そこで展開される参加者の英語そのものとコミュニティへの参加意欲を分析した。その結果、英語については、初級者は相手をあまり意識せずすでに習った英語を使って自分なりの表現を生み出そうとするが、中級へと進むにしがたい、相手の発言内容を意識した表現ができることが分かった。また、コミュニティへの参加意欲は英語力とは相関が少なく、むしろ議論するトピックへの興味が大いに影響することが分かった。

研究成果の概要(英文)：In this research project, firstly, we constructed an “English Learning Community” on the Internet based on participants’ mutual learning by using SNS, which is now one of the major communication tools among young people. Secondly, we analyzed the English used by participants in the learning community and their eagerness to participate and discuss in the community. The analysis shows limited proficiency level students try to express themselves by using already-known English expressions with little consciousness of other participants. On the other hand, intermediate students try to understand other participants’ opinions well and then try to express their own opinions in English. With regards to the participants’ eagerness to discuss in the community, their English level doesn’t have a strong influence, but their interest in the discussion topics is a crucial factor for participation.

研究分野：英語教育

キーワード：SNS 英語コミュニティ TED Moodle

### 1. 研究開始当初の背景

現代の若者にとって、英語およびコミュニケーション・スキルの習得は非常に重要であるという社会的な認識を背景に、マスメディアにおいても英語教育の重要性が叫ばれ、社会には様々な英語教材が溢れている。しかし、その多くは個別学習あるいは一対一の学習を基盤としており、その中に位置するインターネット上の教材も同様であるように思われる。インターネットを利用して学術的な内容を学ぶ教育システムとしては、世界の一流大学が講義をオンラインで無償提供するMOOCs(Massive Open Online Courses)があるが、多くの日本人英語学習者が一足飛びに英語でMOOCsに挑戦するのはかなり難しい状況にあると思われる。

そこで、SNS (Social Networking Service) のようなユビキタスなシステムがコミュニケーションの主流となっている若者に対して、従来型の学習形態ではなく、同程度の英語能力を持つ学習者同士が、パソコン、タブレット型端末、スマートフォン等を利用して情報を共有し、メッセージを伝え合う「学びのコミュニティ」を構築することの必要性が迫られている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、まず第一に、上記のような状況下で、SNS をプラットフォームとして、教員も学習者も「共に学び合う」という共通認識のもとに、情報を共有し、メッセージを伝え合う、英語を媒介とする「学びのコミュニティ」を形成することである。

そして次に、インターネット上に構築したこの「学びのコミュニティ」における学習者の使用する英語を分析し、さらに学習者の「コミュニティ」への参加意識の分析を通じた学びの様相を明らかにすることで、インターネット時代の新しい英語学習システム構築の資とすることである。

### 3. 研究の方法

本研究では、インターネットを介在する「学びのコミュニティ」の構築の第一歩として、オーセンティックで興味深いビデオとSNS を有効に活用して、誰もが自由に参加できる場をインターネット上に構築することによって、一方向型の学習から参加者同士の自主的な「学びのコミュニティ」の形成が図れるのではないかと考えて TED (Technology Entertainment Design) Talks のビデオを利用したシステムを立ち上げた。

具体的には、以下の構成からなる Moodle を基盤としたオンラインコミュニケーションシステム (通称 “TEDdiscussion”) を構築し、題材であるビデオを参加者全員が視聴して内容を学び、英語で意見やコメントを書き込むという形で参加する「学びのコミュニティ」を立ち上げ、実践し、評価した。

### 【TEDdiscussion の構成】

TEDdiscussion は、TED Talks のプレゼンテーションの内容について英語でディスカッションする場であり、参加者は、登録した ID とパスワードで、自分の好みの端末から、いつでもどこでも、このサイトにログインしてディスカッションに参加できる。また、より豊かで内容を掘り下げたディスカッションができるようにするため、ビデオの内容理解を助け言語面でのサポートをする、いわゆる足場作り (scaffolding) のための仕掛けを備えている。図1は、プロトタイプとして作成したユニットの画面であるが、各ユニットは TED Talks ビデオ、日本語および英語のスクリプト、協働で作成する語彙リスト (Glossary)、そして実際のディスカッションの場 (Forum) で構成されている。

Topic 1

Derek Sivers: How to start a movement (3:10)

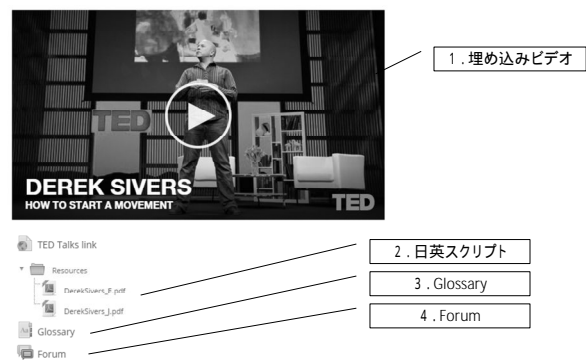


図1 TEDdiscussion の画面構成

#### 埋め込みビデオ

Moodle に埋め込まれたビデオは、全画面表示、字幕のオン・オフ、および多くの場合、字幕の日英選択が可能である。参加者は個人で繰り返しビデオを視聴することができる。

#### 日英のスクリプト

日・英のスクリプトが容易に入手可能で、それらを読んで内容を自主学習することも TED Talks の利点のひとつである。TEDdiscussion では、日本語と英語のスクリプトを PDF または Word ファイルとしてダウンロードできるようにした。

#### Glossary

Glossary は、Moodle に標準的に備わっている「みんなで作る用語集」機能である。同じビデオを視聴した参加者が、「単語カード」を作るように、スクリプトで学んだ単語や表現とその意味をそれぞれの欄に入力して投稿すると、その単語カードが参加者全員で共有される。

#### Forum

Forum も Moodle に標準的に装備されている「ディスカッション・ボード」機能であり、

本プロジェクトの主要部分である。Forum では、教師が投げかけたトピックの議論に参加するだけでなく、自らも自由にトピックを挙げて新たな議論を展開させることもできるシステムになっている。

#### 4. 研究成果

1) 学生間のインタラクションと英語の変化について

TEDisucssionのFORUMに投稿した学生の英語の分析は、動画からの情報・日英語のスピーチ・スクリプトと字幕、ディスカッションの口火となった質問、また他者の書き込み、の3点のリソースを、参加者が自らの発話にどのように取り入れているかという視点で行った。

##### 【英語初級者】

全体的に多様なリソース、たとえば教員の英語表現などを参考にしながら、自分の表現を生み出そうとする姿勢が見られた。しかし、TED Talks や他の投稿者の内容へ対応する過程はほとんどみられなかった。学生の返信における第一の特徴は英語表現の模倣である。学生の発言(投稿)にTED Talks や教員の英語を取り入れようとするが、必ずしも正確に模倣できていなかった。たとえば、If you felt like you were in a rut, what would you do?という質問に対し、教員の返信は“When I feel like I am stuck in a rut...”と始まる。これを参考にして、次のように模倣した学生の返信があった。When I felt like I'm in a rut,.../When I feel like I was in a rut,...つまり意味を理解する際に日本語の過去時制が意識に挿入されたものと思われる。またTED Talksにある馴染みのない表現を別の言葉で置き換える傾向(in a rut →mannerism→in a wheel track)が見られた。さらに、対話が始まると、通じるように努力し、まとめようとする。表現を創造する姿勢(riding on the flow go with the flow: 流れに乗る)が見られる。また辞書を使用して自分の気持ちにあった表現を探して発言に取り入れている傾向が見られた。

##### 【英語中級者】

FORUMに投稿する前段階として、4月の授業ではライティングまで含めたリーディング活動 - World Water Day 2015: Executive summary(UNESCO)の要約を行った。このために、読んだ内容を理解し、キーワードを選択して、自分の考えを入れながら書く形をFORUMでも観察することができた。まず、What do you think of the digital woods and trackers?という質問に対し、講演者のKovac氏が開発したLightbeamというインターネット検索の追跡ソフトをダウンロードして使い、Kovac氏と強く場を共有し書き込みをしている参加者もいた。そのため installed, add-on, collusion, fully realized, exposed, navigated, tracked, sites, surface, などKovac氏の話す英語を多く使

用し、自分の意味に対応した表現にするために、とくに文構造を生成的に変形している。たとえば、“I have navigated just 39 sites in a week, I have been tracked by 227 sites.”に対して、「それまでは目に見えているものしか気にとめなかった」ことを表現するために“I had just taken care of a surface”のように過去完了形を使った。上述の事例は、社会実践的な経験を通して、学習者は自分が伝えたい意味が明確になり、それに伴って言語表現も生成するようになることを示唆している。

2) 「学びのコミュニティ」への参加意識について 投稿語数に見る交流意欲とそれに対する影響要因の分析

今回のプロジェクトに参加した8つの教育機関のうちのF大学に所属する2年生88名。共通教育の英語科目履修者(選択必修)を対象に、Forumに投稿された英語データ、参加者のアンケート調査、アルクネットアカデミーのレベル診断テストを利用し、参加者の英語力と参加意欲の相関を分析した。分析結果は以下の通りであった。

##### 【投稿語数から見る影響要因】

(1) 英語力の影響を調査したところ、英語力が高いほど投稿語数が多いだろうという一般的予測に反して、英語力上位群と下位群の間に有意な差は見られなかった( $t = 1.023, p > .05$ )。しかしながら、人数は少ないものの投稿に参加しなかった学生と投稿した学生の英語力には有意差が見られた( $t = 2.770, p = 0.011$ )。つまり、英語力の低い学生は最初から投稿すること自体をあきらめてしまった様子がうかがえる。このことから英語力は投稿意欲に影響したと考えられる。

(2) 投稿語数とTED Talks 視聴回数について調査した。視聴回数1回、2回、3回以上の3グループ間の投稿語数の平均を調べたところ、視聴回数の多いグループほど投稿語数が多かったことが分かった。投稿に意欲的な学生は、TED Talks を繰り返し見ることによって、投稿に利用できる英文や語彙などの言語的要素、また自分が意見を述べたい箇所を探したと思われる。

(3) 投稿動機は「教員の指示」と答えたグループと、そうではないと答えたグループの投稿語数を比較したところ、両群間に有意な差は見られなかった( $t = 0.639, p > .05$ )。投稿行為の開始は教員の指示によるものであるが、成績に影響するから投稿したというような外的要因を挙げた学生と、成績とは関係のない内的要因を挙げた学生の投稿語数には差が見られなかった。

##### 【自由記述から見る影響要因】

分析のうち、投稿阻害要因を中心に述べると、以下のことが伺えた。まずは、本名での投稿を好まない学生が少なからずいたことが挙げられる。これについてはニックネームの使用を検討すべきであろう。また、投稿件

数が多すぎてどこに返信したらよいのかわからないという意見もあった。意見交流の適正規模はどれぐらいか、今後検証する必要がある。また、投稿しなかった学生からは、TED Talks の内容が難しすぎた、英語での意見の述べ方がわからなかった、TED Talks のトピックに関心が持てなかったなどの意見が寄せられた。英語レベルの異なる複数のトークをボード上に呈示、学習者の専門分野や興味、また英語レベルに応じて選択させる工夫が必要であると思われる。

### 3) 事前アンケートと事後アンケートから見えること

TEDisucssion を実施する前後にアンケートを実施しているが、その回答から見えることをまとめる。参加校としては、K1 大学(79 名)、T 大学(24 名)、K2 大学(23 名)、G 高専(8 名)、H 大(1 名)の 5 校、135 名となるが、そのうち「英語で意見交換をしたことがありますか」という質問に対して、「ある」と答えたのは 22 名で、84 パーセントの学生が未経験であった。この質問と「英語でコミュニケーションをしたいと思いませんか」という質問を合わせて分析すると、「ある」と答えた学生の方が、「ない」と答えた学生よりも英語でコミュニケーションしたいという意欲が少し高いことが見て取れる。

実際にはどうだったかという、「どこまで参加しましたか」という質問に対して、英語で意見交換した経験のあるなしにかかわらず、英語でコミュニケーションする意欲のある 3 分の 1 から半分くらいの学生が「他大学の視聴」を行っている。しかし、それ以上踏み込んで他大学へ書き込んだり、他大学の学生に返信したりすることは、どちらも躊躇している場合が多かった。

しかし、では、他学への関心が低いかというと、コミュニケーションの意欲が高い学生ほど関心は高く、8 点満点でいずれも 6 点以上の平均値をとっている。その理由として、こちらから提示した「他大学の学生の考えを知りたい」と「他大学の学生の英語力を知りたい」の 2 つについて、4 点満点で評価してもらったところ、平均値は、若干「英語力」のほうが高かったが、これは決定的なものではなかった。この値も、経験のあるなしにかかわらず、コミュニケーションの意欲が高い学生のグループほど高くなっていた。

### 4) 教育的示唆と今後の課題

本研究は「教えない」英語教育(学習者が日英語スクリプトや他者の投稿英文を模倣することによって英語を自律的に学ぶこと)を基本に、お互い同士での英語のコミュニティの構築を目指すものである。しかしながら、英語力不足を感じて投稿を控えた学生や意見の述べ方がわからなかったと回答した学生がいたことから、あくまでも自主的にとはいえ、レベルに応じてコアとなる英語表現を

授業で扱うなどの工夫が必要であると思われる。

本研究では投稿語数が投稿意欲の表れであるという立場でデータ分析したが、本当にそうかどうかについては今後の課題としたい。また、アンケート回答では、題材として選択した TED Talks の内容やニックネームの使用が投稿語数の増加につながることを示唆されたが、これらについては今後さらに検証を重ねる必要がある。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

飯野一彦、藤枝美穂(2016)「SNS に展開する英語によるディスカッション・ボードの構築と実践」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第 35 号 pp.107-116.

鈴木広子、菅原安彦、保崎則雄(2016)「オンライン・ディスカッションを通じた学生間のインタラクションと英語の変化」『東海大学 教育開発研究センター紀要』No.1 pp.27-41

菅原安彦(2017)「テクノロジーと英語教育 教えない英語教育を目指して」『国士舘大学 教養論集』第 80 号 pp.1-16

飯野一彦、鈴木広子、藤枝美穂、菅原安彦、松浦浩子、宮本節子、小原平、保崎則雄(2017)「TED を利用したディスカッション・ボードの構築と実践 他大学との交流を中心に」『群馬高専レビュー』第 35 号 pp.39-45

〔学会発表〕(計 6 件)

菅原安彦(2014 年 9 月 5 日)「SNS を使用したディスカッション・ボードの構築 「教えない」英語教育を目指して」平成 26 年度教育改革 ICT 戦略大会、アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

菅原安彦、鈴木広子、保崎則雄(2015 年 8 月 6 日)「オンライン・ディスカッションにおける発話の生成過程の分析」外国語教育メディア学会(LET)第 55 回(2015 年度)全国研究大会、千里ライフサイエンスセンター

鈴木広子、飯野一彦、藤枝美穂、保崎則雄(2015 年 8 月 6 日)「シンポジウム: “媒介する道具” を効果的に応用した英語教育の試みとしての英語はどのような言語力なのか」外国語教育メディア学会(LET)第 55 回全国研究大会、千里ライフサイエンスセンター

飯野一彦、藤枝美穂(2015 年 9 月 12 日)「SNS に展開する英語によるディスカッション・ボードの構築と実践」全国高等専門学校英語教育学会 第 39 回研究大会、京都府中小企業会館

松浦浩子、宮本節子、飯野一彦(2016 年 8 月 8 日)「Forum を利用した交流サイトにおいて投稿意欲を喚起・阻害する要因は何か」

外国語教育メディア学会 (LET) 第 56 回全国  
研究大会、早稲田大学

藤枝美穂、宮本節子、小原平、飯野一彦、  
鈴木広子、菅原安彦、保崎則雄、松浦浩子  
(2017 年 3 月 20 日)「TED を利用したオンラ  
イン・ディスカッション交流：学生アンケート  
の分析」第 23 回大学教育研究フォーラム、  
京都大学

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

飯野一彦 ( IINO Kazuhiko )  
群馬工業高等専門学校・一般教科 ( 人文科  
学 ) ・教授  
研究者番号 : 80159574

### (2) 研究分担者

小原平 ( OHRA Osamu )  
東京慈恵会医科大学・医学部・教授  
研究者番号 : 1026603

藤枝美穂 ( FUJIEDA Miho )  
大阪医科大学・医学部・教授  
研究者番号 : 20328173

菅原安彦 ( SUGAWARA Yasuhiko )  
国土館大学・政経学部・教授  
研究者番号 : 30206403

鈴木広子 ( SUZUKI Hiroko )  
東海大学・教育研究所・教授  
研究者番号 : 50191789

宮本節子 ( MIYAMOTO Setsuko )  
兵庫県立大学・環境人間学部・教授  
研究者番号 : 60305688

松浦浩子 ( MATSUURA Hiroko )  
福島大学・経済経営学類・教授  
研究者番号 : 70199751

保崎則雄 ( HAZAKI Norio )  
早稲田大学・人間科学学術院・教授  
研究者番号 : 70221562